
地球防衛軍

霧夜

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

地球防衛軍

【Nコード】

N4726BA

【作者名】

霧夜

【あらすじ】

インベーターに続きフォーリナーの攻撃にさらされた地球。あれから、十年という月日が流れた。地球は、その十年という月日の中で復興と発展を遂げていた。連合地球軍『EDF』は、新たに、宇宙艦隊を設立した。これこそが一番の進歩であった。また、女性の陸戦兵志願が開始された。

この物語は、ある部隊が異邦人との新たな戦いに、どのように生き抜いていくかを示した物である。

ほぼ、オリジナルになっています。原作を汚さないために努力し

ていきます。

プロローグ（前書き）

やってしまった・・・。

プロローグ

インベーダーに続きフォーリナーの攻撃にさらされた地球。あれから、十年という月日が流れた。地球は、その十年という月日の中で復興と発展を遂げていた。連合地球軍『EDF』は、新たに、宇宙艦隊を設立した。これこそが一番の進歩であった。また、女性の陸戦兵志願が開始された。

この物語は、ある部隊が異邦人との新たな戦いに、どのように生き抜いていくかを示した物である。

・・・EDF日本支部・・・

ここは、異邦人との三回の戦いを指揮し、日本を勝利へと導いたEDFの日本支部である。

「やあ、筑森山賀大佐。今日はご苦労。つくもりやまが」

「いえ。新支部長。それで・・・要件とは？」

「ああ。先日、陸・海・空いずれでも行動できる特殊隊員の話をしたろ？」

「ええ。確かにしましたが・・・。」

「それでだな・・・君の部隊に四人任せたい奴がいるんだが・・・大丈夫か？」

「その話！本当ですか!？」

「ああ・・・。」

この会話の中にある特殊隊員というのはEDFが新たに配備予定である隊員の事だ。陸・海・空すべての兵器や、武装、女性特殊部隊ペイルウイング隊の正式装備である飛行ユニットよりはるかに高性能な飛行ユニット『パワードユニット』を装備する隊員の事であり、いまだ世界でたった十五人しかいないという極めて貴重な兵種である。

「本当によろしいのですか？」

「ああ、なんとたって君は、前戦の英雄『ストーム1』の生き残りの隊員だったからな。こちらとしても安心して預けられる。」

「ありがとうございます！」

山賀の顔は喜びにあふれていた。貴重な隊員を四人も配備してもらえるのである。喜ばない訳がない。

―EDF日本支部内会議室―

「私が、今日から君たちの命を預かることになった隊長の筑森山賀大佐だ。よろしく。」

「俺が『EDF第一特殊隊員部隊【ゴースト1（ワン）】』の部隊長、星真達哉少佐だ。よろしく。」

「同じく副隊長の奈利真慧悟大尉です！よろしく！」

「同じく隊員の滓真亮中尉だ。よろしく。隊長！」

「・・・隊員の村雨楓少尉・・・よろしく・・・。」

「うむ。では、本日付けで君たちには私の部隊で行動してもらうことになる。頼んだぞ。」

「「了解！！」」

「・・・了解・・・。」

「楓少尉・・・。声小さいな・・・。」

「こいつは、元からなんでしょうがないかと思えます隊長・・・。」

「あ、そうなのか？」

プロローグ（後書き）

完全に会話がほとんどでしたね O r Z

異邦人襲来！（前書き）

今回からストーリー展開！！

異邦人襲来!

・・・EDF第3独立歩兵機械化混成部隊駐屯基地・・・

この部隊の駐屯地は、日本の長野県に存在している。小規模な基地ではあるが、飛行場、ヘリポート、格納庫、兵舎が整備されている基地である。この基地に元『イーグル1』が配属されてから、三ヶ月の月日が流れた。元『イーグル1』の隊員は一人を除き、EDF第3独立歩兵機械化混成部隊通称『バスター1』の隊員たちと打ち解けていた。

それまでは平和であったが、その平和は、今日という日で終わるとはだれが予想できたであろうか・・・。

―西暦2037年6月12日午前5時―

「いい朝だ〜!」

そんなことを言って起きだしてきているのは、星真達哉少佐である。起床時間まであと一時間余りあるが、達哉は決まってこの時間に起きてくるのである。

「さて、今日は俺が一番かな?」

そんなことを呟きながら、達哉が休憩室に入ると、

「・・・なんだもう起きてたのかよ、楓。お前起きるの早すぎだろ。」

「・・・少佐が遅いだけ・・・。」

楓は、そんなことを言うともた手に持っている本に視線を落として本を読み始めた。

「楓は、きついこと言うね〜。」

そう呟きながらも達哉は気にしないそぶりを見せながらコーヒーを飲み始めた。

―午前10時―

「これよりブリーフィングを始める！」

「敬礼！！」

その掛け声とともに隊員が全員一斉に敬礼する。

「それでは、これからの訓練内容についてだg『緊急事態発生！緊急事態発生！』・・・どうした！！」

山賀がそう言うが早く、ブリーフィング室の大スクリーンにオペレーターの様子が映し出された。

「支部より緊急通達です！」

「・・・なんだ。」

山賀は冷静さを取り戻してオペレーターに聞いた。

「はい・・・。先ほど、宙域にインベーターならびにフォーリナーの大船団が出現、EDF第1連合宇宙艦隊が迎撃に当たりました。」

「第1連合宇宙艦隊か・・・。確か、EDFで最強と言われる艦隊だな？」

「はい。」

「で、どうなったんだ？」

山賀はそう聞いたが、オペレーターから帰ってきた言葉は、全員が耳を疑いたくなるような返答だった。

「迎撃に当たった第1連合宇宙艦隊は『宇宙駆逐艦【雪月】【プラマ】を残し壊滅しました・・・。」

「「「「「「「「「「「「「「「「「「「「「「「」

「現在、インベーターならびにフォーリナーの大船団が大気圏突入を開始しました。EDF本部では、インベーター、フォーリナーが同盟を結び攻めてきたとみて、我が部隊にも長野県が攻撃対象と分かり次第異邦人の迎撃を開始せよとの命令が来ております。」

「なるほど・・・。予定変更！総員出撃準備を開始せよ！！」

「「「「「了解!!」」」」」

隊員たちは、敬礼しながら素晴らしい、足早にブリーフィング室を出て行った。

異邦人襲来！（後書き）

今回短くてすいませんorz

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4726ba/>

地球防衛軍

2012年1月13日21時55分発行